

# 秋



立秋。暦の上では秋ですが、  
 まだまだ残暑は悩ましく、  
 台風も次々に発生する季節。  
 それでもいつのまにか虫の声。  
 金木屋の甘い香りも楽しみです。  
 「ハロウィーンを過ぎたら秋も終わりです」  
 というアンケートの答えには、世代の差を  
 感じて驚いたものでした。

行水の 捨てどころなし 虫の声 上島鬼貫 (俳諧師)  
 モノサシ詠  
 行水に使った水を庭に捨てようと思ったけれど、  
 庭のどこそで秋の虫が鳴いていて、  
 水を捨てる場所がないじゃないか。



「クツワムシのガシャガシャいう声」  
 「コオロギが鳴き始めると秋」  
 「鈴虫」  
 「そいうえば蟬の声がしないと気づいたとき」

「山の木々が色づく」「紅葉狩り」「赤い紅葉がきれい」

「銀杏拾い」「銀杏をもらうことが増える」  
 「見事な紅葉」「銀杏の香り」

「風が変わる」「風が涼しくなる」「空気がひんやり・」

「アキアカネ出現」「秋のトンボが減った」「赤とんぼ」

「影が長く、日差しが深くなる」

「家の中の日の差し方が変わる」「日暮れが早くなる」

「布団干し」「衣替え」「冬仕度」

「あなたのキーワードは？」

「山でイガグリを拾ったとき」

「栗拾い」「栗ご飯」「野焼きの匂い」

どんぐり 彼岸花 お月見 鱒雲 金木屋の香り キノコ ススキ 新米 梨 焼きサンマ 秋晴れ

## 豊かさを実感する秋 内田洋子

私のパーソナルカラーは「秋色」だそうだ。秋は好きな色がたく  
 さんあるので、ちょっとうれしい。

昨年、ある小学3年生の総合学習の授業に触れる機会があった。  
 児童は11月の発表会で『まっかな秋』を唄うために、「秋」を見つけ  
 に街を散策していた。散策の前に子どもたちに葉っぱの絵を描い  
 てもらおうと、筆圧が弱く、葉っぱの輪郭をさっさっさと描いて終わ  
 りだった。ところが何度か体験活動をした後に、児童たちがじっく  
 りお気に入りの葉っぱを観察して描いた葉っぱの絵には、実に豊か  
 な色があふれていた。

気つきと関心の持ち方で、こんなに違うものかと改めて体験の  
 大切さを認識したことだった。さぞ、唄も気持ちを入れて歌うこと  
 ができたのではないだろうか。

日頃、予定表ばかり気にして過ごす毎日でも、夏の終わりに感じ  
 る涼風は秋の訪れを気づかせてくれる。  
 買い物に出ると店頭には豊かな農水産物。高知の食欲を掻き立  
 てる楽しみ多い秋である。